

団体名	財団法人三重県文化振興事業団
-----	----------------

## 【経営基本情報】

### 団体の基本情報

所在地	津市一身田上津部田1234番地		
HPアドレス	http://www.center-mie.or.jp		
電話番号	059-233-1103	FAX番号	059-233-1106
設立年月日	平成4年3月25日		
代表者	理事長 武村 泰男	県所管部等	生活・文化部
県出資額	2,000,000,000 円	県出資割合	100.0 %
団体の目的	芸術文化及び生涯学習並びに男女共同参画社会づくりに関する事業を行うことにより、文化の振興を図ることを目的とする。		

### 主な事業内容

#### [事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) 管理運営事業	942,917	903,725	924,662	
全事業合計に占める割合	79.6%	80.2%	77.9%	
(2) 文化会館事業	171,858	160,985	198,960	
全事業合計に占める割合	14.5%	14.3%	16.8%	
(3) 生涯学習センター事業	17,568	17,657	12,688	
全事業合計に占める割合	1.5%	1.6%	1.1%	
(4) (1)～(3)以外の事業	51,818	44,493	51,141	
全事業合計に占める割合	4.4%	3.9%	4.3%	
全事業合計	1,184,161	1,126,860	1,187,451	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

#### [事業の概要]

- (1) 三重県総合文化センターの管理運営及び施設貸出サービス
- (2) 文化会館が提供する各種サービス(音楽・演劇等の提供、芸術文化に関する人材育成研修等)
- (3) 生涯学習センターが提供する各種サービス(生涯学習社会づくりに資する情報提供、研修、教育機器貸出等)
- (4) 男女共同参画センターが提供する各種サービス及びセンターPR事業及び文化会館友の会事業等

#### 役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	1人	1人	1人	
うち、県退職者	1人	1人	1人	H20平均年齢 : - 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	常勤役員の給与等に関する規定により支給
常勤正規職員	13人	15人	15人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : 37.7 歳
うち、県派遣	1人	0人	0人	H20平均年収 : 4,564 千円
その他職員	53人	49人	50人	年俸制管理職5名 専門員40名 嘱託員5名
うち、県退職者	9人	6人	6人	

派遣職員は含まない

団体名	財団法人三重県文化振興事業団
-----	----------------

○財務概況

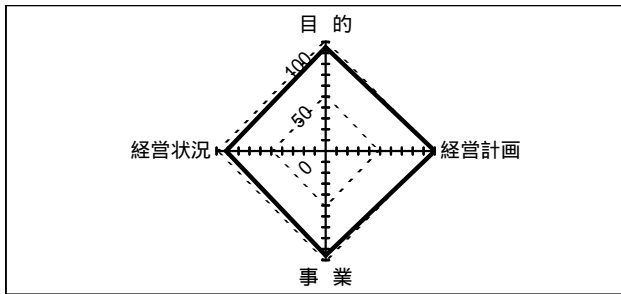
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
正味財産増減計算書	経常収益	基本財産運用益	16,255	16,669	20,335
		受託事業収益	900,203	848,179	841,186
		受取補助金・助成金	0	0	0
		自己収益	301,860	309,837	349,596
		その他収益	10,000	0	0
		計 (a)	1,228,318	1,174,685	1,211,117
	経常費用	事業費	241,244	223,135	262,789
		管理費	942,917	903,725	924,662
		計 (b)	1,184,161	1,126,860	1,187,451
		当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	44,157	47,825	23,666
	経常外収益 (d)	0	0	0	
		経常外費用 (e)	0	0	0
	当期経常外増減額 (f) = (d) - (e)	0	0	0	
	当期一般正味財産増減額 (g) = (c) + (f)	44,157	47,825	23,666	
	当期指定正味財産増減額 (h)	0	0	0	
	当期正味財産増減額合計 (g) + (h)	44,157	47,825	23,666	
貸借対照表	資産	流動資産	318,825	350,773	354,140
		固定資産	2,021,508	2,027,939	2,035,793
		計	2,340,333	2,378,712	2,389,933
	負債	流動負債	205,605	189,728	169,428
		固定負債	21,433	27,864	35,719
		計 (i)	227,038	217,592	205,147
	指定正味財産 (うち、基本財産への充当額)	(j)	2,000,000	2,000,000	2,000,000
	一般正味財産 (うち、基本財産への充当額)	(k)	0	0	0
	正味財産合計 (l) = (j) + (k)		2,113,295	2,161,120	2,184,786
	負債・正味財産合計 (i) + (l)		2,340,333	2,378,712	2,389,933

主な指標	正味財産比率	正味財産 / (負債 + 正味財産)	90.3%	90.9%	91.4%
	借入金依存率	借入金 / (負債 + 正味財産)	0.0%	0.0%	0.0%
	基本財産運用利率	基本財産運用益 / 基本財産	0.8%	0.8%	1.0%
	自己収益比率	自己収益 / (経常費用 - 受託事業費)	106.3%	111.2%	101.0%
	当期経常増減率	当期経常増減額 / 経常収益	3.6%	4.1%	2.0%
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額 / (負債 + 正味財産)	1.9%	2.0%	1.0%
	人件費比率	人件費 / 経常費用	23.5%	25.8%	25.0%
	管理費比率	管理費 / 経常費用	79.6%	80.2%	77.9%

県からの財政的支援等	委託料	千円	899,993	847,969	841,186
	補助金・助成金	千円	0	0	0
	負担金	千円	0	0	0
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0
	計	千円	899,993	847,969	841,186
	借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
	債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
	損失補償限度額	千円	0	0	0
	損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	財団法人三重県文化振興事業団
-----	----------------

**【団体自己評価結果】**



	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	95	A	95	A	95	A
経営計画	94	A	94	A	100	A
事業	96	A	96	A	96	A
経営状況	96	A	100	A	91	A

A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる  
 C(30%～59%):改善を要する

B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる  
 D(0%～29%):大いに改善を要する

**【団体自己評価コメント】**

平成20年度コメント	
目的	芸術文化、生涯学習及び男女共同参画社会づくりに関する社会的要請に合致している。指定管理者制度等の社会情勢の変化に伴い積極的に経営改善に取り組み、財団独自事業の充実を図る。(公募選定により平成19年4月1日から3カ年の2期目の指定管理者に指定されている。)
経営計画	三重県総合文化センター中期事業計画書(H19.4.1～H22.3.31)において、財団独自事業では、寄付金収入等の収益増加と事業の充実により県内の文化振興に寄与している。また指定管理者事業での経営方針や経営計画は、「県民しあわせプラン」の施策と合致している。
事業	ISO9001品質マネジメントシステムの効果的運用により、事業やサービスの目標管理、顧客ニーズの把握に努め、四半期に1回の経営者レビューや県への報告会議を通じて、適宜、活動の修正・是正を行っている。
経営状況	経営状況は適正な財務水準を維持している。

総括コメント	2期目の指定管理者として2年目を迎え、施設貸出サービス、来館者サービスを中心に、積極的なルール・サービス改善を図り、貸出施設の利用率は平成16年度以降5期連続で過去最高値を更新し、平成20年度の年間利用率は75.2%を記録した。 一方、文化会館、生涯学習センター、男女共同参画センターの各事業部門においても、従来からの事業の質・量の継続性を維持しつつ、拠点機能を活かした出前連携事業やアウトリーチ事業、総合性を発揮した部門連携事業等を積極的に展開した。文化会館では公演事業入場率90.6%と過去最高値を記録した。 また、施設運営においては地域・県民とともに歩む施設づくりを目指し、ボランティアによる活動を強化したほか、企業協賛会員の入会も積極的に勧誘し、充実した財団独自事業を展開した。
--------	---

**【団体の達成目標】**

年次事業計画による達成目標  
 (定性目標)

平成20年度目標	次期指定管理者を視野に入れ、職員全員が一丸となって過去最高の実績を達成すべく、各部門の事業を充実させるとともに、複合施設としての機能を発揮する仕組みを構築する。
平成20年度実績	ホール改修工事の影響もあったが、貸出施設利用率及び文化会館公演事業入場率が過去最高値を更新。レストラン・売店のリニューアル、看板作成サービス及び無線LANサービスの拡大、施設のインターネット予約を実施。身障者用トイレに温水洗浄便座を増設。お正月イベント等総合文化センターPR事業の充実、イルミネーションでのエコへの配慮。
平成21年度目標	次期指定管理者の獲得を絶対条件に、職員全員が共通意識を高め、更なるサービス向上、経営効率向上、顧客の獲得に努めるとともに、中長期を視野に入れた事業展開、組織強化を図る。

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
公演事業入場率	80	%	目標	80	80	80
			実績	84.3	90.6	
貸出施設利用率	73	%	目標	71	72	73
			実績	73.8	75.2	
生涯学習情報提供システムへのアクセス数	140,000	件	目標	140,000	140,000	140,000
			実績	178,270	190,421	

中長期計画による達成目標

センターHPアクセス数(年間)12,500件、貸出施設利用率72.0%、貸出施設利用満足度80%、文化会館公演事業入場率80%、文化事業全体収支比率65%、生涯学習情報提供システムへのアクセス数140,000件、生涯学習センター主催事業参加者数8,400人、貸出教材・機材利用度23%、男女共同参画センター主催事業参加者数10,500人、男女共同参画フォーラム男性参加率30%等、企業協賛会員数60社以上。

団体名	財団法人三重県文化振興事業団
-----	----------------

### 【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)  
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)  
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				総合文化センターが担う芸術文化、生涯学習、男女共同参画に対する県民のニーズを的確に把握し、県内における文化振興の複合拠点施設としての役割を果たしている。
経営計画				「県民しあわせプラン」に記された施策に基づき、指定管理期間である3か年の事業計画書及び毎年度の事業計画書を策定している。
事業				顧客のニーズや満足度の把握に努め、各事業の目標は概ね達成している。また適宜、事業活動の改善に努めている。
経営状況				「基本財産の運用方針」に基づく資産運用を行い、着実な経営努力を続けている。

### (知事等の総括コメント)

経営の効率化、柔軟な事業展開を行うとともに、機動性・弾力性の高さを活かして各種サービスの改善に取り組んでいる。これにより定量目標はほぼ達成されており、未達成の項目についても98%超と高い数値となっている。なお、独自に定めている部門ごとの品質目標においてもそれぞれ95%以上の高い達成率を実現している。未達成の項目については要因分析を行い、改善につなげようとする姿勢が見られる。

中長期計画に掲げる目標については、施設における利便性の向上、ニーズを反映した公演や講座の実施等により、達成に向けて着実に努力している。

以上のとおり、当該財団の目的と指定管理者としての仕様に沿った事業展開で、総合文化センターの複合施設としてのメリットを活かし、県の文化芸術、生涯学習、男女共同参画の進展に大きく寄与している。

今後も蓄積されたネットワークやノウハウを発揮して効率的な運営を行い、拠点機能としての役割を果たすことが期待される。

団体名	財団法人三重県国際交流財団
-----	---------------

## 【経営基本情報】

### 団体の基本情報

所在地	津市羽所町700番地 アスト津3階		
HPアドレス	http://www.mief.or.jp		
電話番号	059-223-5006	FAX番号	059-223-5007
設立年月日	平成3年5月15日		
代表者	理事長 豊田 長康	県所管部等	生活・文化部
県出資額	356,759,268 円	県出資割合	72.8 %
団体の目的	三重県の美しい自然と温かい県民性を生かした幅広い分野での国際交流活動及び国際協力活動を推進することにより、地域の活性化と教育の向上を図るとともに、諸外国の人々との相互理解と友好親善に資することを目的とする。		

### 主な事業内容

#### [事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) 外国人技術者・技術習得サポート事業	16,221	14,671	12,487	
全事業合計に占める割合	21.8%	24.8%	24.2%	
(2) 多言語生活行政情報提供事業	7,952	8,753	9,876	
全事業合計に占める割合	10.7%	14.8%	19.1%	
(3) 外国人ヘルプデスク事業	0	7,452	7,087	
全事業合計に占める割合	0.0%	12.6%	13.7%	
(4) (1)～(3)以外の事業	50,301	28,230	22,198	
全事業合計に占める割合	67.5%	47.8%	43.0%	
全事業合計	74,474	59,106	51,648	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

#### [事業の概要]

- 自国の産業振興に資する日本の技術を習得させるとともに、日本の経済・文化等についての理解・交流を促進
- 年間を通じ、外国人住民向けにFM放送を利用して、英語・ポルトガル語による生活・行政情報を提供
- 外国人住民のための窓口相談、電話相談の対応や専門相談会の開催
- その他、多文化共生社会推進事業、国際交流促進事業及び国際協力事業を実施

#### 役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	2人	2人	2人	
うち、県退職者	1人	1人	2人	H20平均年齢 : 61.5 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : 5,508 千円
常勤正規職員	1人	1人	1人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : - 歳
うち、県派遣	1人	1人	1人	H20平均年収 : - 千円
その他職員	7人	6人	7人	専門員3人、嘱託1人 書記1人、生活相談員1人 共生社会推進員1人
うち、県退職者	0人	0人	0人	

派遣職員は含まない

団体名	財団法人三重県国際交流財団
-----	---------------

○財務概況

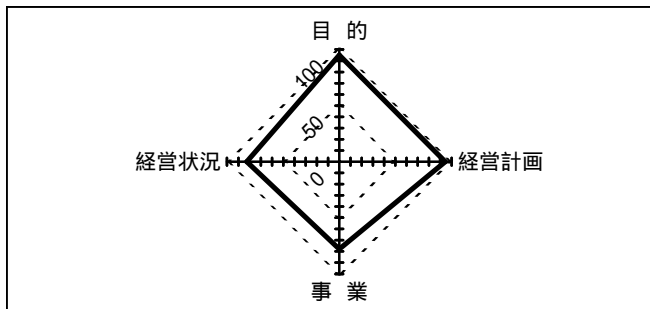
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
正味財産増減計算書	経常収益	基本財産運用益	8,175	7,803	7,479
		受託事業収益	63,685	44,883	42,701
		受取補助金・助成金	5,132	3,567	2,336
		自己収益	11,914	9,551	10,042
		その他収益	16,753	17,414	9,994
		計 (a)	105,659	83,218	72,552
	経常費用	事業費	74,474	59,106	51,648
		管理費	23,417	24,012	16,031
		計 (b)	97,891	83,118	67,679
		当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	7,768	100	4,873
		経常外収益 (d)	18	2,300	257
経常外費用 (e)		796	884	714	
	当期経常外増減額 (f) = (d) - (e)	△ 778	1,416	△ 457	
	当期一般正味財産増減額 (g) = (c) + (f)	6,990	1,516	4,416	
	当期指定正味財産増減額 (h)	△ 15,204	△ 6,918	△ 11,463	
	当期正味財産増減額合計 (g) + (h)	△ 8,214	△ 5,402	△ 7,047	
貸借対照表	資産	流動資産	37,132	32,585	37,373
		固定資産	687,085	678,484	667,199
		計	724,217	711,069	704,572
	負債	流動負債	11,704	5,553	5,936
		固定負債	1,836	241	408
		計 (i)	13,540	5,794	6,344
	指定正味財産 (j)	(うち、基本財産への充当額)	502,473	491,268	490,053
	一般正味財産 (k)	(うち、基本財産への充当額)	0	0	0
		正味財産合計 (l) = (j) + (k)	710,677	705,275	698,228
		負債・正味財産合計 (i) + (l)	724,217	711,069	704,572

主な指標	正味財産比率	正味財産 / (負債 + 正味財産)	98.1%	99.2%	99.1%
	借入金依存率	借入金 / (負債 + 正味財産)	0.0%	0.0%	0.0%
	基本財産運用利率	基本財産運用益 / 基本財産	1.6%	1.6%	1.5%
	自己収益比率	自己収益 / (経常費用 - 受託事業費)	34.8%	25.0%	40.2%
	当期経常増減率	当期経常増減額 / 経常収益	7.4%	0.1%	6.7%
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額 / (負債 + 正味財産)	1.1%	0.0%	0.7%
	人件費比率	人件費 / 経常費用	42.3%	51.4%	59.3%
	管理費比率	管理費 / 経常費用	23.9%	28.9%	23.7%

県からの財政的支援等	委託料	千円	63,685	44,883	42,701	
	補助金・助成金	千円	3,032	1,867	1,466	
	負担金	千円	0	0	0	
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0	
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0	
		計	千円	66,717	46,750	44,167
		借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
		債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
		損失補償限度額	千円	0	0	0
		損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	財団法人三重県国際交流財団
-----	---------------

### 【団体自己評価結果】



A(90%～100%): 良好な事象や傾向がみられる  
 C(30%～59%): 改善を要する

	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	95	A	95	A	95	A
経営計画	94	A	94	A	94	A
事業	78	B	78	B	78	B
経営状況	78	B	82	B	82	B

B(60%～89%): やや良好な事象や傾向がみられる  
 D(0%～29%): 大いに改善を要する

### 【団体自己評価コメント】

平成20年度コメント	
目的	当財団の目的は、国際交流・国際協力活動を推進することにより、地域の活性化と教育の向上を図るとともに、諸外国の人々との相互理解と友好親善に資することである。特に外国人住民の占める割合が全国的にも高い状況(総人口比率2.78%)にある中で、多文化共生社会の実現に向けたコミュニケーションや生活・教育支援などへの役割が増大している。
経営計画	財団の中長期計画「21世紀の国際交流について～三重県国際交流財団のあり方～」(平成14年3月策定)及び中期事業計画(計画期間平成19～22年度)を策定している。2年目にあたる中期事業計画に基づき、多文化を尊重できる社会の構築に向けた取組を進めている。
事業	多文化共生社会の推進、国際交流の促進、国際協力の拡充のため、事業の遂行にあたっては、外国人住民のニーズ把握や業務プロセスの改善などに努めるとともに、目標設定と中間評価を実施している。
経営状況	平成15～19年度の5年間、低金利の厳しい経済環境のため、基本財産の取崩を行なったが、平成20年度においては、公共債による運用益と自己収益の確保に努めるとともに、人件費、事業費のコスト削減と効果的・効率的な事業展開を行なうことにより、当期経常増減額は5百万円弱の増額となった。

総括コメント	<p>中期事業計画に基づく22事業については、ほぼ目標を達成することができた。また、経済不況に伴う外国人住民への支援として、関係機関との連携により就労・住宅問題等に関する緊急生活情報を適時、適切に提供することができた。</p> <p>今後も、多文化共生社会の実現に向け、取組を進めていく中で、多様な主体との役割分担を行い、選択と集中により優先度の高い事業を展開するとともに、収益事業も検討しつつ、健全な運営に努めていく。</p>
--------	--

### 【団体の達成目標】

年次事業計画による達成目標  
 (定性目標)

平成20年度目標	中期事業計画の2年目にあたり、前年度の課題を整理し、さらに充実した事業を企画実施していく。
平成20年度実績	中期事業計画に基づき、効果的、効率的に事業を実施することができた。また、県の経済対策と連携して多言語による雇用情報等の情報提供を行なった。
平成21年度目標	中期事業計画の3年目にあたり、前年度の課題を整理し、さらに充実した事業を企画実施していく。 また、21年度も県の緊急経済対策と連携し、日本語ボランティアの養成や外国人住民の生活支援などに重点的に取り組んでいく。

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
外国人相談件数	800	件	目標	600	600	800
			実績	700	964	
日本語ボランティア研修参加者数	200	人	目標	100	100	200
			実績	129	189	
外国人児童生徒教育実践研究会参加者数	250	件	目標	150	200	250
			実績	128	224	

中長期計画による達成目標

外国人住民が急増する状況の中、地域における多文化共生社会の実現をめざし、コミュニケーション支援や外国人住民の生活支援、外国につながりをもつ生徒・児童等の学校教育支援に重点的に取り組む。

団体名	財団法人三重県国際交流財団
-----	---------------

### 【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)  
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)  
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				外国人住民の増加に伴い、国際交流から多文化共生社会の実現に向けた取組に重点を移しており、地域の多文化共生社会づくりに大きな役割を果たしている。特に、経済環境の悪化により、生活基盤の脆弱な外国人住民が大きな影響を受けていることから、外国人住民の生活支援に果たす同財団の役割は増大している。
経営計画				県が平成19年3月に策定した「三重県国際化推進指針」を踏まえ、中期的経営計画の見直しを行い、効率的・効果的な法人経営に努めている。
事業				5割以上の事業について、目標設定を行い、中間及び期末に評価を実施し、翌年度に反映している。また、外国人住民等の事業参加者へのアンケート調査や聞き取りを行い、顧客ニーズの把握についても努力している。
経営状況				公共債による運用益と自己収益の確保に努めるとともに、人件費、事業費のコスト削減及び効果的・効率的な事業展開、各種助成制度の活用を図っているが、前年度に引き続き会費収入が減少しており、自主財源の確保に向けたより一層の努力が必要である。

### (知事等の総括コメント)

外国人相談件数や日本語ボランティア研修の参加者数など多文化共生社会づくりに向けた事業の目標値を達成した。また、経済不況に伴う外国人住民支援として関係機関との連携により就労・住宅問題等に関する緊急生活情報を適切かつ速やかに提供した。

今後の事業展開においても、国の認定による地域国際化の拠点としての役割を十分認識し、地域のニーズを的確に把握したうえで、外国人住民への生活情報提供の一層の充実、国際協力事業の拡充、国際交流団体間のネットワークの構築などコーディネーター機能を十分発揮されることを期待する。

経営面では、経済対策として予算化された各種事業を十分活用し、将来に向けた経営基盤強化の足がかりとするとともに、事業の経営面からの評価を一層進め、企業のCSR重視の社会環境を活かし、積極的に寄付金の募集を図るとともに、会員の増加等に向け努力し、自主財源を確保するなど経営健全化に取り組む必要がある。



団体名	株式会社三重データクラフト
-----	---------------

## 【経営基本情報】

### 団体の基本情報

所在地	津市雲出鋼管町1番地		
HPアドレス	http://www.mdc-web.com/		
電話番号	059-246-3700	FAX番号	059-246-3701
設立年月日	平成6年6月9日		
代表者	代表取締役社長 境 克敏	県所管部等	生活・文化部
県出資額	19,500,000 円	県出資割合	39.0 %
団体の目的	一人でも多くの障がい者が、働く場を得て社会活動の一翼を担い、生き甲斐を感じる事が出来るよう、障がい者の雇用を積極的に推進し、地域福祉の向上に資することを通して企業の社会的責任を果たしていくことを目的とする。		

### 主な事業内容

#### [事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) 船舶等のCADデータ作成等	253,658	254,720	267,816	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	
(2)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(3)				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
(4) (1)～(3)以外の事業				
全事業合計に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全事業合計	253,658	254,720	267,816	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

#### [事業の概要]

- (1) 造船、橋梁関係の現図作成、設計業務及び研究所支援業務、アンケート集計・分析等の各種データ処理、ホームページ作成 等
- (2)
- (3)
- (4)

#### 役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	1人	1人	1人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : - 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : 取締役会規則により支給
常勤正規職員	56人	58人	58人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : 35.0 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : 2,941 千円
その他職員	0人	0人	0人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	

団体名	株式会社三重データクラフト
-----	---------------

○財務概況

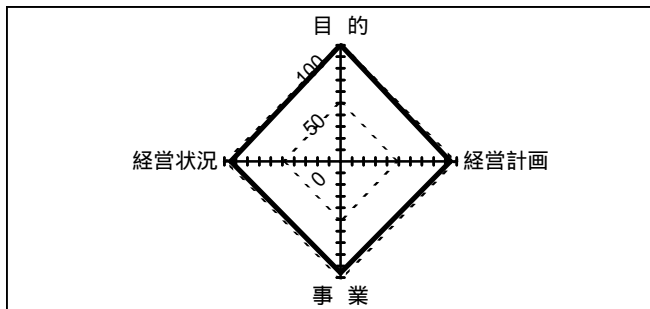
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
損益計算書	営業利益(損失)	売上高 (a)	253,658	254,720	267,816
		売上原価 (b)	214,654	220,976	227,068
		販売費・一般管理費 (c)	33,159	32,051	33,283
		(d) = (a) - (b) - (c)	5,845	1,693	7,465
	経常利益(損失)	営業外収益 (e)	3,604	5,569	8,057
		営業外費用 (f)	0	0	0
		(g) = (d) + (e) - (f)	9,449	7,262	15,522
	当期純利益(損失)	特別利益 (h)	0	0	0
		特別損失 (i)	0	0	0
		法人税等 (j)	3,083	1,988	6,036
(g) + (h) - (i) - (j)		6,366	5,274	9,486	
貸借対照表	資産	流動資産	134,174	141,137	159,988
		固定資産	25,723	26,438	29,827
		繰延資産	0	0	0
	資産合計		159,897	167,575	189,815
	負債	流動負債	44,676	42,926	50,389
		固定負債	18,082	22,236	27,527
		計 (l)	62,758	65,162	77,916
	純資産	資本金(基本金)	50,000	50,000	50,000
		剰余金(累積欠損金)等	47,139	52,413	61,899
		計 (m)	97,139	102,413	111,899
負債・純資産合計	(l) + (m)	159,897	167,575	189,815	

主な指標	自己資本比率	純資産 / (負債 + 純資産)	60.8%	61.1%	59.0%
	流動比率	流動資産 / 流動負債	300.3%	328.8%	317.5%
	借入金依存率	借入金残高 / (負債 + 純資産)	0.0%	0.0%	0.0%
	売上高営業利益率	営業利益 / 売上高	2.3%	0.7%	2.8%
	総資産経常利益率	経常利益 / 資産合計	5.9%	4.3%	8.2%
	人件費比率	人件費 / 売上高	77.4%	79.5%	76.2%

県からの財政的支援等	委託料	千円	0	0	0
	補助金・助成金	千円	0	0	0
	負担金	千円	0	0	0
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0
	計	千円	0	0	0
	借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
	債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
	損失補償限度額	千円	0	0	0
	損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	株式会社三重データクラフト
-----	---------------

### 【団体自己評価結果】



A(90%～100%): 良好な事象や傾向がみられる  
 C(30%～59%): 改善を要する

	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	100	A	94	A	100	A
経営計画	94	A	94	A	94	A
事業	91	A	96	A	96	A
経営状況	94	A	94	A	94	A

B(60%～89%): やや良好な事象や傾向がみられる  
 D(0%～29%): 大いに改善を要する

### 【団体自己評価コメント】

平成20年度コメント	
目的	「障がい者雇用推進を通し地域社会の発展に寄与」を目的に設立された重度障害者多数雇用事業所であり、20年度末時点で障がい者23名を雇用している(重度障がい者18名、重度以外5名)。21年度も重度障がい者の雇用(1名)を計画しており、業務対応能力と意欲のある障がい者には常に門戸を開いている。
経営計画	3年毎に中期経営計画を策定、それをベースに各年の年度計画(売上、損益、雇用など)を作成、親会社の管理下に綿密な事業運営を行っている。
事業	障がい者雇用の前提となる業務量の確保に向け、県内外・JFEグループ内外に積極的事業活動を展開し、着実な成果に結びついている。職務的には障がい者による軽負荷のPCを使った各種情報処理及び船舶、橋梁等の図面作成・設計支援を事業の核としている。ここ数年来、注力してきた古い図面・書類のCAD化/デジタル化業務が、付加価値商品として実績を積み重ねている。
経営状況	事業環境の厳しさと変貌が続く中、売上・損益とも年度計画を大幅に上回り、平成15年以降に於ける最高益を確保、結果として9期連続の黒字確保を達成することが出来た。また、障がい者雇用面では新規採用1名及び新規認定者1名を雇用しつつ、次年度入社の適材も県外より1名確保できた。しかし平成21年度は世界的不況の影響もあり、様相が一転、かつてない厳しい事業運営を余儀なくされる見通しである。
総括コメント	第2次中期経営計画の最終年であった当期はスタートより大変厳しい事業展開が続いたが、売上(268百万円)、経常利益(16百万円)と中期及び年度計画を上回る高業績であった。売上面ではJFE津及びユニバーサル造船津の堅調な業務に加え、JFEエンジニアリング・グループ会社及びスチール部門の好調が牽引した。自治体・民間部門は健闘するも横ばい基調であった。一方、損益面では個人・組織の生産性向上、期初における前期より継続の高採算物件、及び障がい者雇用関係助成金(8百万円)等が寄与した。障がい者雇用は2名(計画値)を達成し、来期採用予定の適材も確保できた(1名)。

### 【団体の達成目標】

年次事業計画による達成目標

(定性目標)	
平成20年度目標	職務遂行能力アップと業務の効率的推進を通して収益力を向上
平成20年度実績	個々の職能アップ及び組織の効率的業務遂行によりトータルな生産性向上が図られ、かつ販売増による増収などから、厳しい事業環境の中で数年来の最高益が確保できた。
平成21年度目標	困難にチャレンジ、変化に適応し事業の持続的発展を!

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
重度障がい者雇用	1	人	目標	2	2	1
			実績	1	1	1
売上高	252	百万円	目標	250	250	252
			実績	255	268	252
当期利益	1	百万円	目標	1	3	1
			実績	5	9	1

中長期計画による達成目標

会社設立目的のミッション遂行により、株主他関係者より高評価を得られる県下での障がい者雇用モデル企業を目指す。損益的には黒字基調の維持、障がい者雇用では毎年1名(重度ベース)の新規採用を目標とする(平成21年～23年度 第3次中期計画期間)。

団体名	株式会社三重データクラフト
-----	---------------

### 【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)  
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)  
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				重度障害者多数雇用事業所として、重度障がい者18名を雇用し、さらに雇用促進を図っているものの、平成20年度の目標2名の雇用については、1名の雇用にとどまった。
経営計画				各年、中期経営計画に沿った年度計画を作成のうえ事業運営を行っている。
事業				業務量確保に向け、受注先の確保や、古い図面のCAD化など、積極的に事業展開している。
経営状況				平成20年度の売上高、当期利益の目標額を実績額では上回っており、9期連続の黒字を確保している。

### (知事等の総括コメント)

重度障害者多数雇用事業所として、設立から15周年を迎え、県内における障がい者雇用のモデル事業所としての役割を担っている。  
 設立時の目標値「重度障がい者雇用15名」については18名を雇用し達成されているものの、一層の障がい者雇用を図るため、毎年度新たな採用を計画しており、平成20年度については2名の目標に対し1名にとどまったが、雇用拡大に向け積極的な取組がなされている。  
 事業展開については、売上高、当期利益ともに、新規顧客開拓、一般管理費の抑制などにより、年度目標値を大幅に上まわっている。また、9期連続で黒字を維持していることから、今後についても黒字基調の堅持が期待される。  
 今後は、「障がい者雇用推進を通して地域社会の発展に貢献」という法人の設立趣旨のもと、障がい者の雇用推進と安定的な事業基盤の構築の両立をなすために、新規顧客開拓等の営業活動を展開するとともに、職務遂行能力アップによる生産力向上を図る必要がある。

団体名	財団法人三重県立美術館協力会
-----	----------------

## 【経営基本情報】

### 団体の基本情報

所在地	津市大谷町11		
HPアドレス	http://www.pref.mie.jp/bijutsu/hp/		
電話番号	059-223-1117	FAX番号	059-223-1117
設立年月日	昭和58年3月26日		
代表者	理事長 谷川 憲三	県所管部等	生活・文化部
県出資額	15,000,000 円	県出資割合	33.3 %
団体の目的	美術に関する調査・研究活動を行うとともに、県民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、本県美術文化の振興発展に寄与する。		

### 主な事業内容

#### [事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) ミュージアムショップ	7,738	15,395	18,890	
全事業合計に占める割合	43.7%	48.6%	48.6%	
(2) 図録等頒布事業	2,879	6,277	9,885	
全事業合計に占める割合	16.3%	19.8%	25.4%	
(3) 展覧会支援事業	5,074	7,794	8,155	
全事業合計に占める割合	28.7%	24.6%	21.0%	
(4) (1)～(3)以外の事業	2,003	2,209	1,972	
全事業合計に占める割合	11.3%	7.0%	5.1%	
全事業合計	17,694	31,675	38,902	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

#### [事業の概要]

- (1) ミュージアムショップで美術関係書籍、絵葉書等を販売
- (2) 企画展覧会に合わせて図録を発刊、販売
- (3) 企画展覧会等の支援
- (4) 移動美術館、美術セミナー等の普及啓発への支援、美術関係団体への支援

#### 役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	1人	1人	1人	
うち、県退職者	1人	1人	1人	H20平均年齢 : - 歳 寄附行為規程による
うち、県派遣	0人	0人	0人	
常勤正規職員	1人	1人	1人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : - 歳 H20平均年収 : 就業規則による
うち、県派遣	0人	0人	0人	
その他職員	3人	3人	2人	業務補助員 2人
うち、県退職者	0人	0人	0人	

派遣職員は含まない

団体名	財団法人三重県立美術館協力会
-----	----------------

○財務概況

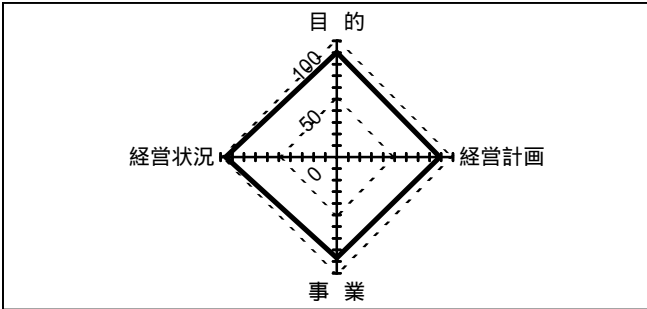
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
正味財産増減計算書	経常収益	基本財産運用益	648	662	652
		受託事業収益	0	0	0
		受取補助金・助成金	5,000	7,000	8,000
		自己収益	19,329	32,656	39,505
		その他収益	0	1,474	0
		計 (a)	24,977	41,792	48,157
	経常費用	事業費	17,694	31,675	38,903
		管理費	9,194	10,224	8,952
		計 (b)	26,888	41,899	47,855
		当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	△ 1,911	△ 107	302
	経常外収益 (d)	0	0	0	
	経常外費用 (e)	670	70	70	
	当期経常外増減額 (f) = (d) - (e)	△ 670	△ 70	△ 70	
	当期一般正味財産増減額 (g) = (c) + (f)	△ 2,581	△ 177	232	
	当期指定正味財産増減額 (h)	0	0	0	
	当期正味財産増減額合計 (g) + (h)	△ 2,581	△ 177	232	
貸借対照表	資産	流動資産	12,198	13,587	4,790
		固定資産	49,258	49,249	49,358
		計	61,456	62,836	54,148
	負債	流動負債	8,155	9,713	793
		固定負債	4,144	4,144	4,144
		計 (i)	12,299	13,857	4,937
	指定正味財産 (うち、基本財産への充当額)	(j)	41,500	41,500	41,500
	一般正味財産 (うち、基本財産への充当額)	(k)	3,500	3,500	3,500
		正味財産合計 (l) = (j) + (k)	49,156	48,979	49,211
		負債・正味財産合計 (i) + (l)	61,455	62,836	54,148

主な指標	正味財産比率	正味財産 / (負債 + 正味財産)	80.0%	77.9%	90.9%
	借入金依存率	借入金 / (負債 + 正味財産)	0.0%	0.0%	0.0%
	基本財産運用利率	基本財産運用益 / 基本財産	1.4%	1.5%	1.4%
	自己収益比率	自己収益 / (経常費用 - 受託事業費)	71.9%	77.9%	82.6%
	当期経常増減率	当期経常増減額 / 経常収益	△ 7.7%	△ 0.3%	0.6%
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額 / (負債 + 正味財産)	△ 3.1%	△ 0.2%	0.6%
	人件費比率	人件費 / 経常費用	28.9%	19.5%	15.4%
	管理費比率	管理費 / 経常費用	34.2%	24.4%	18.7%

県からの財政的支援等	委託料	千円	0	0	0
	補助金・助成金	千円	0	0	0
	負担金	千円	0	0	0
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0
	計	千円	0	0	0
	借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
	債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
	損失補償限度額	千円	0	0	0
	損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	財団法人三重県立美術館協力会
-----	----------------

**【団体自己評価結果】**



	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	95	A	90	A	90	A
経営計画	89	B	89	B	89	B
事業	82	B	82	B	87	B
経営状況	80	B	84	B	96	A

A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる  
 C(30%～59%):改善を要する

B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる  
 D(0%～29%):大いに改善を要する

**【団体自己評価コメント】**

平成20年度コメント	
目的	当法人の目的は、美術文化の振興発展を図るために、美術館の活動に対し、創意と弾力性を加味した効果的な支援をするとともに、必要な事業を行うことである。20年度は、企画展覧会(金刀比羅宮展、佐伯祐三展)の広報に力を傾注し、観覧者増を図ることができた。
経営計画	経営基盤の強化が課題となっている。このため、賛助会員の増員に努力したが、社会経済状況の悪化、美術館の閉館(4ヶ月間)等の背景もあり、厳しい状況となった。21年度はより多方面に働きかけて賛助会員の増員を進め、ミュージアムショップの売上に努力し、運営財源の強化に努める。
事業	企画展覧会(特に佐伯祐三展)は、予想を上回る観覧者があり、また移動美術館、美術セミナーも観覧数等が、数値目標を大幅に上回り、好評であった。収益事業(ミュージアムショップの販売)は4ヶ月間の休館があったものの、対前年度比で23%増の売上となった。
経営状況	当期経常増減額は僅かながらプラスとなり、堅実な経営となった。賛助会員の会費収入は、4ヶ月間の休館があり、会員の期間を延長したため(1年の有効期限を1年4ヶ月としたため)、会費収入が大幅に落ち込んだが、事業活動は黒字となった。
総括コメント	当協力会として広報に力を入れた企画展覧会(金刀比羅宮展、佐伯祐三展)は、多くの観覧者があり、好評であった。また、美術館との共催事業である移動美術館についても、予想を上回る観覧者があり、計画どおり実施できた。21年度は、企画展覧会(元永定正展、大橋歩展)の広報に努めるとともに賛助会員の増員に力を入れる。また、収益事業のミュージアムショップの収益アップに努め、法改正に伴う新公益法人への移行にむけて、準備を進める。

**【団体の達成目標】**

年次事業計画による達成目標  
 (定性目標)

平成20年度目標	運営基盤強化のため、賛助会員の増員、ミュージアムショップの効率的運営 美術館入館者の増加への取組(企画展広報の強化等)
平成20年度実績	美術館の休館(工事で4ヶ月間)があり、賛助会員有効期限を4ヶ月延長したため、会費収入は大幅な減少。美術館入館者数は予想を上回り、入館者増は達成できた。
平成21年度目標	運営基盤強化のため、賛助会員の増員、ミュージアムショップの収益アップ 美術館入館者の増加への取組(企画展広報の強化等)

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
移動美術館、美術セミナー等	2,000	人	目標	2,000	2,500	2,000
			実績	1,773	4,537	
			目標			
			実績			
			目標			
			実績			

中長期計画による達成目標

運営基盤(賛助会員の増員による会費収入の確保)の強化
----------------------------

団体名	財団法人三重県立美術館協力会
-----	----------------

**【知事等の審査及び評価結果】**

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)  
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)  
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				本法人の目的は、本県においての美術文化の振興発展を図るために、美術館の活動に対し、効果的な支援を行うことにある。美術館活動の広報部門における本法人の役割は、美術館にとって無くてはならないものになっている。
経営計画				中長期経営計画で最も力をいれているものが賛助会員の増員である。しかし、4ヶ月の休館の分の会費収入が入らず、収入は大幅に落ち込んだ。ミュージアムショップの充実、オリジナル商品の開発等、運営基盤の確保に力を入れている。更なる創意・工夫により、経営を安定的なものにしてほしい。
事業				ミュージアムショップでの売上が前年度に比べて23パーセント増加し、図録等の販売も57パーセントの増加を見た。「金刀比羅宮書院の美展」での図録の売上や、目標数を70パーセント上回った佐伯祐三展の入館者数などが影響を及ぼしている。今後も、企画展に合わせた、ミュージアムショップでの積極的な販売姿勢が期待される。
経営状況				当期の経常増減額がプラスとなり、堅実な経営となった。理由としては、入館者数の増加や、オリジナル商品の開発・三重県内特産品の販売といった協力会の努力が成果を結んだことだと言える。しかし、4ヶ月間の休館期において業務補助員の賃金が不必要だったことなど、本年独特の館の情勢もこの結果を導いた要因の一つである。安定した経営状況を維持してもらいたい。

**(知事等の総括コメント)**

本法人は、広報部門において、県立美術館の運営上無くてはならない存在となっている。20年度は、企画展の広報へ力を傾注し、大幅な観覧者増を得た。中長期計画の中で力を入れているミュージアムショップでの売上も増加し、経常増減額がプラスに転じた。景気の後退による賛助会員の減少は手痛いだが、会員増員に至るための努力は継続している。更なる創意・工夫により、美術館観覧者の増加にも努力し、安定した経営状況を維持してもらいたい。



団体名	財団法人国史跡齋宮跡保存協会
-----	----------------

## 【経営基本情報】

### 団体の基本情報

所在地	多気郡明和町齋宮3046-25		
HPアドレス	http://www2.mint.or.jp/~itukino		
電話番号	0596-52-3890	FAX番号	0596-52-7089
設立年月日	平成元年7月1日		
代表者	理事長 中山 正美	県所管部等	生活・文化部
県出資額	50,000,000 円	県出資割合	46.0 %
団体の目的	国史跡齋宮跡の保存と活用を行うとともに、歴史と文化に関する知識の普及向上を図るため、必要な事業を行い、もって県民の文化の振興に寄与することを目的とする。		

### 主な事業内容

#### [事業規模(事業費)]

(単位:千円)

事業名	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
(1) 齋宮跡公有地等管理事業	21,675	22,961	18,252	
全事業合計に占める割合	30.3%	33.7%	27.4%	
(2) 歴史体験事業	13,675	11,508	12,549	
全事業合計に占める割合	19.1%	16.9%	18.9%	
(3) 齋宮歴史博物館受付事業	8,198	8,400	8,250	
全事業合計に占める割合	11.5%	12.3%	12.4%	
(4) (1)～(3)以外の事業	28,034	25,200	27,456	
全事業合計に占める割合	39.2%	37.0%	41.3%	
全事業合計	71,582	68,069	66,507	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	

#### [事業の概要]

- (1) 国史跡齋宮跡に所在する公共施設、1 / 10史跡全体模型、史跡公園、公有地の維持管理
- (2) いつきのみや歴史体験館における体験学習事業及びイベント事業の運営
- (3) 齋宮歴史博物館の受付窓口における来訪者の対応
- (4) 来訪者便益施設、齋宮休憩所等の運営及び出版物等販売

#### 役職員の状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
常勤役員	0人	0人	0人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : - 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : - 千円
常勤正規職員	1人	1人	0人	
うち、県退職者	0人	0人	0人	H20平均年齢 : - 歳
うち、県派遣	0人	0人	0人	H20平均年収 : - 千円
その他職員	28人	28人	28人	嘱託5人、臨時23人
うち、県退職者	0人	0人	0人	

派遣職員は含まない

団体名	財団法人国史跡齋宮跡保存協会
-----	----------------

○財務概況

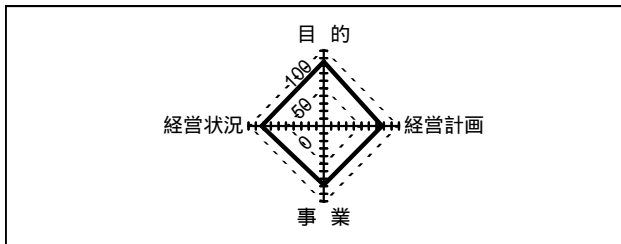
		(単位:千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度
正味財産増減計算書	経常収益	基本財産運用益	414	653	642
		受託事業収益	35,984	34,790	33,637
		受取補助金・助成金	27,250	30,470	28,683
		自己収益	7,049	7,741	6,197
		その他収益	347	846	797
		計 (a)	71,044	74,500	69,956
	経常費用	事業費	56,312	54,976	55,445
		管理費	15,270	13,093	11,063
		計 (b)	71,582	68,069	66,508
		当期経常増減額 (c) = (a) - (b)	△ 538	6,431	3,448
	経常外収益 (d)	0	46	0	
	経常外費用 (e)	0	0	84	
	当期経常外増減額 (f) = (d) - (e)	0	46	△ 84	
	当期一般正味財産増減額 (g) = (c) + (f)	△ 538	6,477	3,364	
	当期指定正味財産増減額 (h)	0	0	0	
	当期正味財産増減額合計 (g) + (h)	△ 538	6,477	3,364	
貸借対照表	資産	流動資産	20,536	24,152	24,172
		固定資産	113,861	113,015	113,734
		計	134,397	137,167	137,906
	負債	流動負債	5,920	6,904	4,279
		固定負債	4,691	0	0
		計 (i)	10,611	6,904	4,279
	指定正味財産 (j)	(うち、基本財産への充当額)	108,798	108,798	108,798
	一般正味財産 (k)	(うち、基本財産への充当額)	0	0	0
		正味財産合計 (l) = (j) + (k)	123,786	130,263	133,627
		負債・正味財産合計 (i) + (l)	134,397	137,167	137,906

主な指標	正味財産比率	正味財産 / (負債 + 正味財産)	92.1%	95.0%	96.9%
	借入金依存率	借入金 / (負債 + 正味財産)	0.0%	0.0%	0.0%
	基本財産運用利率	基本財産運用益 / 基本財産	0.4%	0.6%	0.6%
	自己収益比率	自己収益 / (経常費用 - 受託事業費)	19.8%	23.3%	18.9%
	当期経常増減率	当期経常増減額 / 経常収益	△ 0.8%	8.6%	4.9%
	総資産当期経常増減率	当期経常増減額 / (負債 + 正味財産)	△ 0.4%	4.7%	2.5%
	人件費比率	人件費 / 経常費用	68.5%	64.6%	62.6%
	管理費比率	管理費 / 経常費用	21.3%	19.2%	16.6%

県からの財政的支援等	委託料	千円	18,585	17,391	16,238	
	補助金・助成金	千円	250	470	190	
	負担金	千円	0	0	0	
	借入金(期中に借り入れた額の合計)	千円	0	0	0	
	その他県支出金(追加出資額等)	千円	0	0	0	
		計	千円	18,835	17,861	16,428
		借入金残高(期末残高)	千円	0	0	0
		債務保証額(期末残高)	千円	0	0	0
		損失補償限度額	千円	0	0	0
		損失補償契約に係る債務残高(期末残高)	千円	0	0	0

団体名	財団法人国史跡齋宮跡保存協会
-----	----------------

### 【団体自己評価結果】



	18年度		19年度		20年度	
	比率	評価	比率	評価	比率	評価
目的	85	B	85	B	85	B
経営計画	71	B	77	B	77	B
事業	73	B	73	B	78	B
経営状況	71	B	82	B	82	B

A(90%～100%):良好な事象や傾向がみられる  
C(30%～59%):改善を要する

B(60%～89%):やや良好な事象や傾向がみられる  
D(0%～29%):大いに改善を要する

### 【団体自己評価コメント】

平成20年度コメント	
目的	当法人は、国史跡齋宮跡という貴重な史跡の管理と啓発を目的としている。史跡の適切な管理を行うだけでなく、草花を植えるイベント等に積極的に取り組み、潤いのある空間づくりを目指すほか、歴史と文化に関する知識の普及向上を図るため、県民に総合的な学習や生涯学習の場としていつきのみや歴史体験館で講座や体験学習の機会を提供し、齋宮が最も栄えた平安時代を中心とした歴史の理解や知識の普及に努めている。
経営計画	中期計画の目標数値は、年間体験館等入場者29,000人で、平成17年度からの年間入場者は目標値の約80～90%で推移している。平成20年度は対前年約1,300人の増加であったが、目標値に対し約86%の達成率となった。今後は、平成20年3月に策定した平成20年度から25年度までの次期中長期計画に基づき、年間体験館等入場者数の目標達成を目指す。
事業	龍笛・草木染め・機織・歴史講座等の歴史体験事業を実施するとともに、旧暦の行事や齋宮の四季等の展示を行い、本年度の十五夜観月会イベントでは、昨年度より行っている地域のボランティア等との協働により2,000個のペットボトルロウソクを1/10史跡全体模型を中心に灯火、幻想的な観月会を催し、来訪者の増を図ったほか、史跡公園の充実化では、野花菖蒲の株分けや菜の花、コスモスなどの種時を実施し、来訪者の増加を望んだ事業を展開した。
経営状況	当法人は、平成18年度から本年度まで、明和町より、いつきのみや歴史体験館、1/10史跡全体模型、齋宮跡休憩所の運営管理について指定管理を受けるとともに、従来どおり博物館庭園等維持管理、博物館受付業務、公有地維持管理を県・同町より受託し、その財源を基に運営と管理の業務を行っている。自主財源としては齋宮跡に関する出版物や一筆箋等の販売や休憩所等の活用によるものであるが、少額である。したがって、毎年度、繰越金等の平均水準確保等で経営の確保に努めているが、決して健全な財政ではない。そのため、より一層事業の効率的、経済的な運用と付帯施設の効果的な活用を図り、自主財源確保に努める必要がある。

総括コメント	龍笛・草木染め・機織・歴史講座等の歴史体験事業を実施するとともに、旧暦の行事や齋宮の四季等の展示を行い、本年度の十五夜観月会イベントでは、昨年度より行っている地域のボランティア等との協働により2,000個のペットボトルロウソクを1/10史跡全体模型を中心に灯火、幻想的な観月会を催し、来訪者の増を図った。そのほか、史跡公園の充実化では、野花菖蒲の株分けや菜の花、コスモスなどの種時を実施し、来訪者の増加を望んだ事業を展開した。また、本年度の実績を次年度へ継続するとともに、史跡公園や付帯施設の充実化を地域に根ざしたものとすため、施設整備、体験学習やイベント事業の運営等に役職員一丸となり、また地域のボランティアや関係グループ・団体等と連携を強化し、共に文化の振興を推進していくことが必要である。
--------	---

### 【団体の達成目標】

年次事業計画による達成目標  
(定性目標)

平成20年度目標	歴史学習「源氏物語」の講座特別企画や町制50周年を記念した齋宮浪漫まつりを計画。また、休憩所の室内整備を行い、来訪者のニーズに応える施設の充実化を図る。また、花の植栽等により史跡公園の充実化を図る。
平成20年度実績	龍笛・草木染め・機織・歴史講座等の歴史体験事業を実施するとともに、旧暦の行事や齋宮の四季等の展示を行い、本年度の十五夜観月会イベントでは、本年も地域のボランティア等との協働により2,000個のペットボトルのロウソクを1/10史跡模型を中心に設置し、幻想的な観月会を催し、2,500人の来訪者があった。また、齋宮浪漫まつりは、2,200人の来訪者があった。史跡公園の充実化では、野花菖蒲の株分けを行い約1,200株を増殖するとともに、菜の花、コスモス、なでしこなどの種時をボランティア団体や県立明野高校生徒の協力で実施し、来訪者の増加を望んだ事業を展開した。
平成21年度目標	中長期計画に基づき、無料休憩所の活用やイベント体験事業の検証等を実施する。また、平成21年度は、当法人が設立20周年、いつきのみや歴史体験館が開館10周年を迎える節目の年であるため、記念式典を行うとともに、積極的な情報発信を行い、特に地元の関心を高めるため、団体・関係者等にも積極的な周知活動を展開し、来訪者の増加を図る取り組みを進め、さらなる効率的、効果的な事業運営を目指す。

(定量目標)

指標	数値目標	単位		平成19年度	平成20年度	平成21年度
年間体験館等入場者数	29,000	人	目標	29,000	29,000	29,000
			実績	23,616	24,934	
全講座数に占める参加率70%の講座の割合	56	%	目標	56	56	-
			実績	41	55	-
講座受講者の満足度 (アンケートによる回答者の割合)	70	%	目標	-	-	70
			実績	-	-	-
十五夜観月会参加者	1,500	人	目標	600	600	1,500
			実績	1,700	2,500	

中長期計画による達成目標

- 平成21年度、上園公園調整池及びその周辺に野花菖蒲100%植栽目標。
- 平成22年度、いつきのみや体験館等来訪者、平成22年9月までに30万人達成目標(平成21年3月31日付け265,035人)
- 平成23年度、菖蒲まつり開催、齋宮跡無料休憩所での新規事業開始。

団体名	財団法人国史跡齋宮跡保存協会
-----	----------------

### 【知事等の審査及び評価結果】

+ : 団体自己評価結果に比べて高く評価(良好な点が認められる)  
 - : 団体自己評価結果に比べて低く評価(課題が認められる)  
 空白: 団体自己評価結果と概ね同じ評価

	18年度	19年度	20年度	20年度コメント
目的				国史跡齋宮跡の管理と普及啓発を推進するために、有効的な公有地の活用を進めるとともに、齋宮が最も栄えた平安時代を中心とした歴史体験活動を通じて、県民の文化振興に寄与している。
経営計画				史跡指定地内にあるという立地を活かした活動が行なわれているが、入館者数等は、前年度より増加したものの、伸び悩んでいる。 今後は、平成25年までの次期中長期計画に基づき、自主事業の拡大や創出を含めた特徴的な活動を行い、年間体験館等入場者数の目標達成を目指す必要がある。
事業				野花菖蒲の増殖を行っている史跡公園の充実化や公有地でのコスモス等の植栽は、史跡に特色を与える事業として今後もその取り組みが期待される。 また、各事業の取り組みにボランティアや各種団体の協力を得るなど、地域を巻き込んだ取り組みを進めており、今後は史跡を活かした町づくりにも取り組んでいく必要がある。
経営状況				財務状況は、平成19年度に平成17・18年度の2カ年続いた赤字を解消し、本年度も引き続き黒字とするなど、事業費の縮減に関しては一定の経営努力が認められる。今後はさらなる効率的、効果的な運営が求められる。

### (知事等の総括コメント)

本法人の役割は、国史跡齋宮跡を適切に管理し、齋宮の栄えた平安時代の様子を来訪者に体験してもらうという観点から大変重要である。

しかしながら、組織体制については正規職員の不在、経営状況についても平成19年度の黒字を引き続き達成しているものの、自主財源は少額であるという課題がある。また、体験館等年間入館者数は前年度より微増しているものの、目標値は達成されていないなど課題が多い。この中で、ボランティアや各種団体の協力を得ながら、事業を進める取り組みは、地域の文化は地域が守るという持続可能な地域づくりの取り組みとして評価でき、地域の協力を得ながら積極的な事業展開を行う必要がある。

本法人は、本年設立20周年という記念すべき年でもある。本年から平成25年までの次期中長期計画を進めるために、新たなイベントの開発や無料休憩所の活用を進め、体験館等利用者数の増加と自主財源の確保の取り組みに期待する。